

さがみはら生物多様性 ネットワーク ニュース

第23号

発行日
2025年12月



発行 さがみはら生物多様性ネットワーク

さがみはら生物多様性ネットワークは、生物多様性を将来にわたり保全するための取組を実施し、人と自然が共生する社会の実現を目指しています。生物多様性とは、生きものの豊かな個性とつながりのことです。地球上の生きものは全て直接また間接的に支えあって生きています。

夜空に飛ぶムササビ

中央大学附属中学校高等学校元教諭 岡崎 弘幸

ムササビという動物を知っていますか？名前は聞いたことがあるけれど、姿を見たことがある人は少ないのではないのでしょうか？相模原市は西北部に陣馬山や生藤山、南西部には丹沢山系など1000mを超える山岳地帯と東には丘陵が広がり平野部へと繋がっています。山岳地帯には豊かな自然環境も多く、ハイキングなどを楽しむ方も増えています。一方、丘陵地は近年住宅地やゴルフ場などが造成され、緑地が少なくなってきました。しかし残された森にはカブトムシやクワガタなどの昆虫、アナグマやタヌキなども住んでいます。多くは夜行性なので見られませんが、城山カタクリの里周辺や隣接する町田市の相原中央公園などの里山にも多くの動物たちが住んでいます。その中で今回はムササビを紹介します。

ムササビはリス科の哺乳類で、前足から後ろ足にかけて発達した飛膜（皮膜）を広げて木から木へ滑空する動物です。その距離は実に木の高さの3倍にもなり、高い木から飛べば100m位滑空できます。樹上で生活し、年間を通して樹木の若葉や広葉樹の葉、実（ドングリ）、また冬季にはコナラなどの冬芽や樹皮などを食べます。巣はスギやコナラなどの樹洞や民家の屋根裏に住むこともあります。完全な夜行性動物で、日没約30分後から活動をはじめ、日の出前に巣に戻ります。24時間近い活動周期（体内時計）を持っていて、光に合わせて日没後に巣から出るように調節しています。繁殖期は年2回で、5月頃と11月～1月頃（12月が多い）です。メスだけが縄張りを持ち、オスは数匹のメスを囲むように広い行動圏を持っています。1回の出産で2匹産むことが多く、子育ては母親だけが行います。天敵はテン、アオダイショウ、フクロウなどです。特にアオダイショウは高いところまで音もなく登れるので、襲われてしまうことも少なくありません。



ムササビ（冬季）



滑空するムササビ



サクラの葉を器用に食べる



日没後30分、巣穴から顔を出す

ムササビは森に住む動物です。高尾山はムササビが多く住んでいることで有名ですが、高尾山には長い年月の間、守られてきた豊かな植生があり、年間を通して豊富な食べ物と住処を提供しています。一方相模原東側の丘陵地や町田・八王子市の多摩丘陵には高尾山のような豊かな植生はなく、コナラやクヌギを中心とした二次林に、カシ類やスギなどがモザイク状に生えています。しかし近年の研究で、このような二次林でも数種類の植物を食べ、生き続けていることが分かりました。二次林は落葉樹が多いので土壌も豊かで、ミミズや昆虫の幼虫が住み、それを食べにアナグマやタヌキも出てきます。丘陵の先端部にムササビやアナグマが住んでいることはとても貴重なことです。丘陵と西側の森とが分断されると孤立化が起こり、やがて絶滅へ向かうことになります。私たちはこのように貴重な生き物がたくさん住んでいる森を次代に引き継いでいかなければなりません。そのためには分断化、孤立化が起こらないようある程度管理しながら森を守っていくことが大事です。住宅地の近くにムササビが住む森があるなんて、とても素晴らしいことだと思います。一度森の中に入り、その素晴らしさを感じてみましょう！夕方からはムササビが大空を滑空する姿も見られるかもしれません。

※観察に行くときは夜間になりますので、ビジターセンターの観察会や専門家と一緒にいきましょう



動画配信中！

さがみはら生物多様性ネットワーク
チャンネル

生物多様性って
なんだろう？



外来種って
ワルモノなの？



今回、広報部会は、団体会員の桜美林大学リベラルアーツ学群で生物学をご担当の大脇淳先生の研究室を訪問し、主にゼミの様子をお伺いしました。

大脇先生は昆虫生態学、群集生態学、保全生態学がご専門で、「在来種による日本本来の生態系を維持したい」という想いから、最近はとくに草原生態系の研究に注力されているそうです。

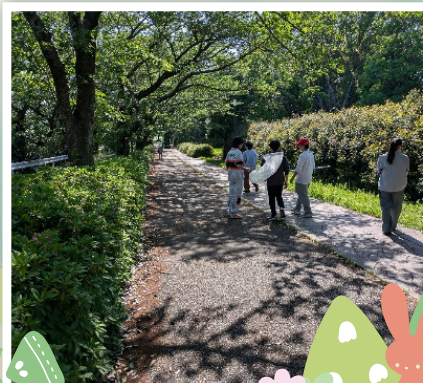
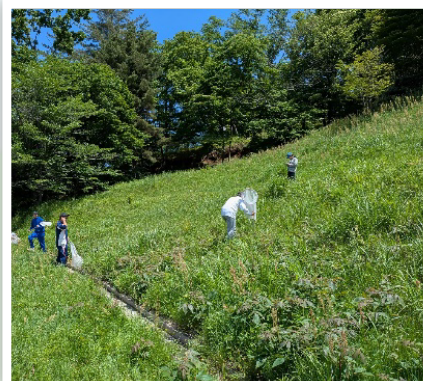
大脇ゼミのスローガンは、「生き物の名前を100覚えよう」。様々な専門から成るリベラルアーツ学群のため、先生のゼミには生物学が専門でない学生も多く集まります。「生き物を知らないとは自然は漠然としか見えてきませんが、身近な昆虫と植物を合わせて100種程度覚えるだけでも、自然界の見え方が全く違ってきます。」具体的には、出来る限り野外に出て昆虫や植物を採集し、それらの

名前を調べ、種の同定方法や標本のつくり方を学ぶ。また、繁茂している外来植物を駆除して、その効果を追跡調査で評価する。セイタカアワダチソウをひたすら引っこ抜く作業は重労働で、ゼミ生はブツブツ言いながら取り組んでいるそうですが、集めたデータを自分で解析してみると、その鮮やかな結果に驚くそうです。

大脇先生は、「生物多様性を保全するためには、まず色々な生き物の名前を覚え、それがどこにどこに住んでいてどんな生活をしているか、それは外来種か在来種か、といった基本的な知識が必要です。野外の自然を理解する力を養いたい人、自然を保全する仕事に就きたい人にゼミに来てほしいです」とおっしゃっていました。



ゼミ生の作製した
標本を見る大脇先生



市内で初めて**自然共生サイト**が認定されました。

三菱電機株式会社 鎌倉製作所 相模事務所 (中央区宮下)

敷地内の「生物多様性緑地」では、「野鳥や昆虫の休息地」「生態系のサイクルの構築」をコンセプトに、木もれびの森の植生を参考にした植樹や、ビオトープに相模川で採取した生き物を導入する等、地域の生態系に近づけた環境に整えています。また、「できる限り人の手を入れず、自然の手に任せる」という管理方針から、「草は膝丈まで残す」などのルールを設定し、管理しています。定期的な観察によって、多数のトンボの飛来やヤゴの羽化が確認されています。



「生物多様性緑地」のビオトープ



セグロセキレイ



ハクセキレイ(夏)

※敷地内への立ち入りはご遠慮ください。一般の方の見学はできません。

30by30とは…

2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする世界目標のこと。

自然共生サイトとは…

30by30目標達成のために「民間の取組等によって生物多様性の保全が図られている区域」を国が認定する制度のこと。認定された区域は、保護地域との重複を除き「OECM(Other Effective area based Conservation Measures)」として国際データベースに登録されます。

会員募集中!! 入会随時

さがみはら生物多様性ネットワークに入会して、生物多様性の保全と一緒に取り組みませんか。ネットワークの趣旨に賛同する個人・団体・事業者で活動に積極的に参加していただける方であれば、どなたでも入会できます。

年会費…1口1,000円
個人・団体会員/1口以上
事業者会員/2口以上

発行者：さがみはら生物多様性ネットワーク事務局
(相模原市水みどり環境課内)
住所：相模原市中央区中央2-11-15
電話：042-769-8242
Eメール：midori@city.sagamihara.kanagawa.jp

